



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

国際学会に参加しませんか？

〔当法人理事〕

多摩センタークリニックみらい

藤井 仁美 [医師]

今年の夏、ちょうどお盆にAASD(アジア糖尿病学会)2024に出かけてきました。アメリカ(ADA)やヨーロッパ(EASD)の学会は、糖尿病にまつわる研究・診療などでの「受賞講演」のように、その人の若い頃からの歩みや、難しい分野の話も平易に紐解いて「さすが！」と心打たれるものがあります。一方早朝7時前から朝食を食べながら、あるいは夕食を囲んでの講演会も楽しみです。アメリカではまさに最先端の治療を見聞、ヨーロッパでは細やかケアや地域全体を視野に入れた丁寧かつ重厚な(?)経験を聞くこともできます。英語がわからないし、という向きもあるかもしれませんが(実際には糖尿病に限定すれば結構テクニカルタームさえわかれば図表を見るのもそんなに苦労はいらないのですが)。しかし、最近私は「打って出て」います。コメディカルスタッフに声をかけ、抄録を英訳、ポスターを作って持っていくのに「アジア」は良い場なのです。今回は「モンゴル・ウランバートル」というまだ見ぬ地に惹かれたところ大でしたが、当法人看護師長と、重症化予防事業を一緒にやっている市中薬局薬剤師さん2人と出張することになりました。昔はポスター「貼り逃げ」をしていましたが、誰もが母国語ではない英語を操るアジアでは恐れることもありません。といいながら、演題数が集まらなかったの3人とも口演で、とメールが来たのにはびっくりでしたが、こうして抄録も発表も、チェックを頼んだのはパン屋を営むインテリの(!)アメリカ人患者さんでした。かくして猛特訓の末、学会に乗り込みました。共同演者の私としては、モンゴル人の英語が聞き取れるかしら？と不安だったのですが、座長の、今をときめく矢部 大介京大教授が英語と日本語で質問、演者が答えたのを更に英訳してくれるという場面もありました。アジア学会やIDF(国際糖尿病連盟)は企業の援助も少なく、今回も開催準備もはかどらず大変だったようです。「国際学会を引き受けるのは初めてで、慣れていないので…」とメールにも書いてありました。そんな中活躍していたのは、医学部生や卒業したての医師など国立ウランバートル大学の若き女性たちでした。そもそも医学部は女性優位なのだそうです。流暢な英語を操り、受付対応や、朝4時過ぎに自分の車でホテルから空港まで送ってくれる場面も。「インスタに載せるから」と写真を撮ってくれたり、ディナー会場ではみんな出てきて踊ったり、一方で「日本に留学したいと思っているのだが、引受先を探し中」と、さすがエリートなのだと思わせる部分も。人口の半分が集まっているウランバートルはかなり都会ですが一方遊牧民もいて、全国的な健診・スクリーニング活動もまだ緒についたところのようでした。平均年齢27歳と若い国でした。「乗馬を習うという概念がない」という馬を車に乗り換えたような、怪しい交通マナーと渋滞、チンギス・ハンがいまだ尊敬され、冬は-30~40℃という厳寒を生きる人々でした。

Act locallyでも世界に思いを馳せたい方、ぜひ国際学会に参加してみませんか？微力ながらお手伝いしますよ。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 糖尿病の検査について正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります)

1. 空腹時血糖とは8時間以上絶食させた後の血糖である
2. 早朝空腹時の血中インスリン値が15 μ U/mL以上ではインスリン抵抗性の存在が考えられる
3. 血糖値の変動があっても、平均血糖値が同じであれば、HbA1cは同じである
4. 血糖値が上昇すると1, 5-AGは上昇する
5. グリコアルブミンは過去2ヵ月の平均血糖を反映する



報告

第10回北多摩糖尿病カンファランス

日時: 令和6年7月24日(水)
オンライン

第10回北多摩糖尿病カンファレンスをホテルエミシア東京立川にて開催しました。今回のテーマは「ミトコンドリア糖尿病」について皆で学びましょうということです。症例は少ないながらも普段の診療で診ることがあるため知識を深める研修会を企画し、川崎医科大学 糖尿病・代謝内分泌内科学 講師 下田 将司先生にご講演いただきました。当日は医師・看護師・薬剤師・管理栄養士などWeb参加を含め計70名を超える方々に視聴いただきました。遠くは苫小牧からの視聴がありました。

講演内容は、正常なミトコンドリアと糖尿病ミトコンドリアの違いについて話があり、高血糖による解糖系の亢進が細胞内の代謝異常を引き起こし大量の活性酸素が産生され、そのミトコンドリア由来の活性酸素がインスリン抵抗性を起こし2型糖尿病の発症、糖毒性、糖尿病合併症の発症など様々な病状を引き起こすと言われています。

話題のイメグリミンですが、ミトコンドリアの形態を維持し、膵β細胞のアポトーシスを抑制、大動脈弓部のプラーク形成への影響により動脈硬化を抑制する事が期待できるなど、遺伝子レベルまで深く入り込みわかりやすく解説していただきました。講演の途中では、SGLT2とDPP4の話題にも触れていただき、げつ歯類を用いた試験ではあるが、両剤は膵β細胞を保護すること、プラセボ試験に於いて両剤はProinsulin、Proinsulin/CPR比、Proinsulin/insulin比といった膵β細胞障害の指標を改善することが報告されており、その効果の比較ではSGLT2に優位性があるとコメントいただきました。

講演の最後には、健康であればあらゆる臓器に余力があり互いに協調し合いいろんな状況に対応できる。糖尿病になると老化速度が速まり、臓器の予備能が低下する。ということは多種職が連携するチーム医療が非常に重要だ、ということをお学ばし研修会となりました。

「一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク」共催事業
第10回 北多摩糖尿病カンファランス

日時: 2024年7月24日(水)
19:30~20:40

講演会 開催会場: ホテル エミシア東京立川 2階 アマレット
〒190-0012 東京都立川市曙町2丁目14-16
Tel.042-525-1405

◆Opening Remarks 19:30~
イムス三芳総合病院 内分泌・代謝センター長 貴田岡 正史 先生

◆Special Lecture 19:35~20:35
座長 立川病院 糖尿病・内分泌代謝内科 医長 矢島 賢 先生

『安心と気づきを提供する、
将来予測に基づく糖尿病診療』
演者 川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学 講師 下田 将司 先生

◆Closing Remarks 20:35~
かんの内科 院長 菅野 一男 先生

共催: 北多摩糖尿病治療研究会/大正製薬株式会社

報告

西東京CDEの会 第22回例会

日時: 令和6年8月3日(土)
オンライン

[当法人評議員] 東京医科大学八王子医療センター 池谷 修平 [臨床検査技師]

8月3日(土)に「西東京CDEの会 第22回例会」がZoomミーティングを用いて開催されました。今回のメインテーマは『糖尿病の病名が変わる?!』と題し、スティグマとアドボカシー活動について7名の先生にご教示いただきましたのでご報告します。

第一部「糖尿病に潜むスティグマの問題」では、杏林大学医学部付属病院 近藤 琢磨先生よりスティグマとは・糖尿病のスティグマの環境構造・スティグマが糖尿病患者の血糖マネジメントに与える行動についてご講演いただき、糖尿病であることを隠さずにいられる社会を目指す必要性を再確認することができました。

第二部「医療者・AYA世代のスティグマ」では、駒沢女子大学教授/緑風荘病院 西村 一弘先生にご講演いただき、療養指導の際に注意を払い医療従事者としてもスティグマを意識していくことが重要であることを学びました。またライフステージ毎のスティグマについて学び想像するより多く存在することに気がつきました。

第三部「シンポジウム」では看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士の各職種から見たスティグマについてご講演いただきました。理学療法士の長谷部 翼先生より、自身が体験したスティグマについて説明していただき実際の声を聞くことができたのは大変勉強になりました。また職種毎に異なる視点があり多くのことを学びました。他職種が集まる研修会だからこそ分かる問題点もあり、有意義な研修会となりました。質疑応答では質問が集まらずオンライン開催の問題点を感じました。

糖尿病という名称自体の問題や環境・ライフステージなど様々なことを再確認することができた研修会でした。今回学んだ知識を生かし、これからの療養指導を行っていきたいと思います。





第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会

令和6年9月21日(土)～22日(日)

国立京都国際会館

[当法人会員]

日本赤十字社医療センター

村田 中 [看護師]

今年度の日本糖尿病教育・看護学会学術集会は京都で開催されました。コロナ禍を経て、非常に多くの方が現地に参加していました。最新の知見をまとめた講演や興味深いテーマの研究報告など多くありましたが、交流集会の企画が多い印象を受けました。交流集会は学会に来場した人々と集会の企画者がディスカッションを通じて交流する形式で進められます。交流集会のテーマは、「高齢糖尿病患者の支援」「災害時の糖尿病看護」「治療中断経験のある人への支援の検討」など、糖尿病看護に携わる人たちが、日ごろ抱える悩みや疑問を反映したものでした。そこで、私も交流集会に参加することとしました。選んだテーマは「精神疾患と糖尿病を併せもつ人の特徴を知って支援の糸口を見つけよう!」でした。

交流集会の前半は、日ごろから精神病院で糖尿病を併せもつ人への療養支援を行っている看護師から精神疾患についてのミニレクチャーでした。精神疾患と言っても幅が広く、今回はうつ病・統合失調症・認知症に焦点を絞り、疾患の特徴とかかわり方のポイントについての講義でした。疾患それぞれで異なる

具体的な言葉のかけ方は、日ごろ意識していなかったため新鮮に感じました。また、日ごろは、看護学生時代に身に着けた古い知識をフル活用し、精神疾患を併せもつ糖尿病の人への支援をしているため、“これでいいのかな”と支援の仕方も方向性も自信がないままでしたが、今回のレクチャーで学び直しができ自信が芽生えました。

交流集会の後半は、6人程度のグループに分かれたディスカッションでした。グループでは、それぞれの参加者から対応に苦慮した事例が語られ、支援の方向性などについて意見交換しました。最後は、まとめとしてグループ内のディスカッション内容を全体で共有しました。交流集会全体を通じて学んだことは、精神疾患をもつ人から精神疾患の治療状況を話してもらい確認することでした、さらに、睡眠や食事摂取など生活が安定してい



るか確認することが大切で、安定していれば糖尿病の療養支援を進めるというものでした。逆に、生活が安定していないことをキャッチしたら、精神状況の安定を待ちつつ、精神科での服薬が継続できるように支援することがポイントとなります。生活に着目することが得意な看護師であればこそ状況を把握しやすく、よい支援に繋がれると思います。交流集会は気軽に会話できる雰囲気、他のテーマにも参加してみたい気持ちが高まる経験でした。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 2, 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. 空腹時血糖とは10時間以上絶食した後の血糖をいう。
2. ○
3. ○
4. 1.5AGは尿細管で糖と競合的に再吸収されるため尿糖量と関係する。血糖が上がると低下し過去数日間の食後高血糖を反映する。
5. グリコアルブミンは糖と血中タンパクのアルブミンが結合したもので、アルブミンの半減期である過去2週間の平均血糖を反映している。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業
 ☒ 共催・後援事業
 ☐ その他

◆ 第15回 ブルーライトアップ 市民向けオンラインセミナー

申込不要

特別講演：『糖尿病は怖い？怖くない？』

開催日：2024年11月9日（土）14:00～15:30

会場：Zoomにて開催いたします

参加方法：当日は、セミナープログラムに掲載のミーティングIDとパスワードを入力するか、QRコードを読み取ってご参加ください

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

参加費
無料オン
ライン

□ 第65回 糖尿病診療—最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修講座]

申込必要

開催日：2024年11月10日（日）10:00～13:30

会場：TKPガーデンシティPREMIUM金沢駅西口 / Zoomにて開催

参加費：3,000円

申込：糖尿病情報センターHPに掲載の申込フォームよりお申し込みください（11/3締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中 他

ハイブ
リッド

◆ 第25回 西東京糖尿病心理と医療研究会

申込必要

開催日：2024年11月16日（土）15:30～18:50

会場：国立市商業協同組合 さくらホール（JR中央線「国立駅」南口下車 徒歩3分）

参加費：500円

申込：FAX：042-400-5952（11/8締切）

問合せ：ノボノルディスクファーマ㈱（担当：木村） TEL：042-400-5951

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

◆ 第25回 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

申込必要

テーマ：『1型糖尿病の診断』

開催日：2024年12月7日（土）15:00～17:55

参加方法：Zoom / 立川相互病院 2階講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（12/6締切）

問合せ：サノフィ㈱（担当：山本） メール：Moriyoshi.Yamamoto@sanofi.com

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

☆日本医師会生涯教育制度：2単位3カリキュラム申請中

参加費
無料ハイブ
リッド

◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第27回研修会

申込必要

テーマ：『CGMの進歩とAutomated insulin Delivery(AID)の評価は？』

開催日：2024年12月10日（火）19:20～21:00

会場：立川相互病院 会議室（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（12/6締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/ Email:info@cad-net.jp

編集後記



猛暑ですね～、脱水、熱中症に気を付けてくださいね！と決まり文句のように患者さんにあいさつしていたことが、つい先日のですが、気が付けば今年も残すところ2ヶ月程度となってしまいました。短い秋を感じながら真冬に突入していくでしょう。気温が低下し乾燥すれば、さあウィルスの季節が到来です！睡眠、栄養、休養をとりながら、ウィルスとの戦いに備えましょう！（広報委員 川越 宣明）